



いちき串木野市医師会 広報誌
医師会立脳神経外科センター



a joint undertaking

vol.37

令和4年10月21日発行

ちくら

医療コラム

おしえて! ドクター

第3回 高齢者うつ病患者さんと、 認知症患者さんの鑑別について

医療法人静和会 みなと病院 福元 晋一郎先生
P 4・5

チーム活動の紹介

- 褥瘡委員会・接遇向上委員会…………… P 2・3
- 『地域ケア会議』とは?…………… P 6・7
- 回復期リハビリテーション病棟とは…………… P 8・9
- 地域医療を支える 医師会会員病院紹介…………… P10・11
- みんなの掲示板…………… P12



チーム活動の紹介

接遇向上委員会

縁の下の力持ち

- 目的**
- 患者様や御家族、地域住民の安心感や信頼感を得ることが出来る病院でありたい。そのために職員全体の接遇対応力の向上を目指します。
 - 職員同士の円滑なコミュニケーションを図り働きやすい職場環境を作ります。

メンバー 看護部長を委員長とし、看護部、リハビリ部、事務部、医療技術部、訪問部門から選出された多職種メンバーで構成しています。

- 主な活動内容と実践**
- (1) 現状調査：各部署にてラウンドチェック（月1回）・身だしなみチェック（週1回）を行います。
 - (2) 職員満足度調査：年1回 すべての結果とさまざまな意見に対する回答を公表しています。
 - (3) 患者満足度調査：年2回 外来患者様・入院患者様を対象に実施し、回答を公表しています。
 - (4) 院内の接遇目標を設定・掲示し、各メンバーが自部署で周知して実践できるように促しています。
 - (5) 教育活動：まずはメンバーの接遇対応力を向上させるため、会議内でミニ勉強会を実践しています。
 - (6) 各メンバーが自部署で接遇研修会やカンファレンス等を実施しています。

委員長から一言

患者様や全職員のために2年前に発足した新しい委員会です。
外来患者様・入院患者様・ご家族が安心して医療や看護、リハビリを受けることができる、また、当院で働く全職員が働き続けたいと思えるような職場環境を作るために活動しています。
患者様や職員に「選ばれる病院」になるためにこれからも頑張ります。

チーム活動の紹介

褥瘡委員会

縁の下の力持ち

- 目的** 全入院患者に安心と安全の提供を基に、褥瘡発生リスクのある患者さんには予防策を講じ、褥瘡のある患者さんに対しては悪化の防止、再発予防のための環境を整えています。

メンバー 医師、看護師、薬剤師、リハビリ部（PT・OT・ST）、管理栄養士、事務職員の多職種が協働して活動しています。

主な活動内容と実績 院内の褥瘡発生状況や、予防対策の把握と褥瘡に関する危険因子のある患者、褥瘡を保有して入院された患者に対し適切に褥瘡対策の診療計画が作成、実践、評価されているか確認し、その内容について指導を行っています。
また、褥瘡予防に向け、体圧分散寝具の提供、リハビリスタッフによる、個々に応じたポジショニングの指導、実践を行うことで褥瘡発生を軽減できていると思います。

昨年度の褥瘡発生は4件
今年度も5件以下にすることを目標に活動しています。(9月現在発生者 0件)

委員長から一言

当院に入院される患者様は、高齢な方が多くおられます。
入院時より皮膚トラブルを抱えている患者様・脳卒中後遺症により麻痺があり自分で動けないことにより、皮膚トラブルを起こしやすい患者様です。
褥瘡を作らないために患者様の栄養状態を把握し、個々にあった栄養の提供を行います。
また、皮膚を観察し清潔に保つことで、褥瘡を作らないための活動を日々行っています。
今後も褥瘡発生ゼロを目指して頑張ります。

第3回 高齢者うつ病患者さんと、認知症患者さんの鑑別について

医療法人静和会 みなと病院 福元 晋一郎 先生



今回は、当院に、「親が認知症かもしれません」とご家族が相談に来られることがありますので、認知症の症状なのか、うつ病なのかの鑑別点をお教え致します（ただし、鑑別が難しい方もいらっしゃいます）。

I：高齢者うつ病の特徴と対応法

高齢者うつ病患者さんは、「腰が痛い」、「めまいがする」、「胃がむかむかして、食べたくない」などと身体不定愁訴を、毎日朝から一日中話すため、ご家族と内科や外科、脳神経外科などの病院を次々に受診して、レントゲン検査・CT 検査・胃カメラ検査を受けるのですが、どこの病院でも医師より「どこも異状無いですよ」と言われるので、ご家族は、「病気じゃないのだから、休んで」とつい怒ってしまいます。そうしますと、ご本人は、もう誰にも相談できなくなってしまい、憂うつ気分・不安感が悪化し、さらには、食欲もどんどん低下してしまい、体重が減ってしまい、ついには家に閉じこもってしまうことがあります。そして、最終的にかかりつけの先生から、精神科を紹介され、ようやくうつ病と診断されることがあります。残念ながらうつ病は、画像診断されにくい病気ですので、親がうつ病と気づき



にくいのが現状です（テレビや新聞などのマスコミで、うつ病や認知症について紹介されますので、以前に比べますと、ご家族が『もしかしたら、親はうつ病かもしれない』と気づかれて、早期に精神科を受診される方も多のですが）。とにかく、うつ病を理解して頂き、「気のせいだから」、「体はどうもないのだから」などと怒らないで下さい。高齢者うつ病患者さんは、「もう死にたい」と希死念慮を抱きやすいですし、不安・焦燥感が強いので、出来るだけ早く、精神科を受診してください。さらに、「食べたくない」と食欲が低下したり、「コロボン体操に行きたくない」、「誰にも会いたくない」と意欲が低下したり、「記憶力が悪くなった」などの仮性認知症状態となることがありますので、うつ病による仮性認知症と認知症の鑑別について説明します。



【仮性認知症と認知症の鑑別法】

	(仮性認知症)	(認知症)
物忘れの自覚	ある	少ない
物忘れに対する深刻さ	ある	少ない
物忘れに対する姿勢	誇張的	誤魔化す
気分の落ち込み	ある	少ない
典型的な妄想	心気妄想	物盗られ妄想
意欲	ある	無い (アパシー)
抗うつ薬効果	ある	無い



④時計描写テスト (CDT)：時計の 10 時 10 分の絵を描いて頂くことで、認知症かうつ病かを鑑別するテストです。ただし、1 回受診して検査を受けても、うつ病なのか仮性認知症なのか判断できないこともありますので、その後、通院していただくことになります。



Ⅲ：治療法

うつ病か仮性認知症なのか判断が難しい場合は、うつ病治療から開始いたします。ゆううつ気分・食欲低下に加え、希死念慮も認める場合がありますので、まずは抗うつ薬や睡眠薬などで、うつ症状から治療することが優先されます。

今回は、高齢者の方のうつ病なのか、うつ病なのに認知症と同じような症状を認める患者さんなのかを判断する鑑別法について紹介させて頂きました。

Ⅱ：精神科受診して行う検査について

- ①まず、これまでの生活歴（家族構成、職歴、病院受診歴、いつ頃からどのような症状が出現したのかなど）からの情報が大切ですので、詳しく聞き取ります。
- ②頭部 CT：脳の萎縮の程度、出血や梗塞の有無などを検査します。
- ③長谷川式認知症スケール (HDS-R)：記憶力テストです。



活躍している外部活動の紹介

『地域ケア会議』とは？

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター
リハビリテーション部 理学療法士 浦底 まゆみ

まず地域ケア会議云々の前に、一般的な高齢者リハビリテーションのイメージについて説明します(図1参照)。縦軸に生活機能、横軸に時間経過をとったイメージ図が示されています。この図では、急性期や回復期のリハビリテーションは心身機能へのアプローチが中心となり、その後、生活期に向けて活動や参加へのアプローチを高齢者本人の状態を勘案しながらバランスよく提供していくことが示されています。特に生活期の参加へのアプローチにおいては、「地域の中に生きがい・役割をもって生活できるような居場所と出番づくりを支援する」「家庭内の役割づくりを支援する」とあります。自立支援型の地域ケア会議の事例として想定される対象像は、基本的に地域で生活を継続している生活者ですので、当然活動や参加へのアプローチが中心となると考えてよいといえます。

高齢者のリハビリテーションのイメージ

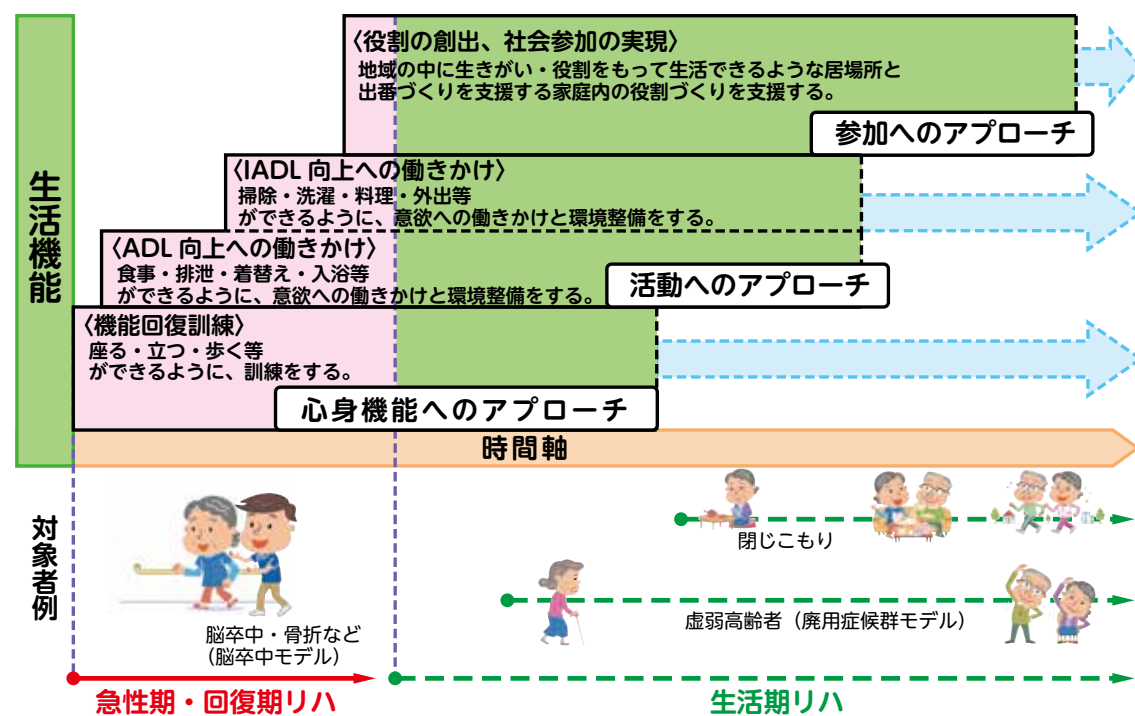


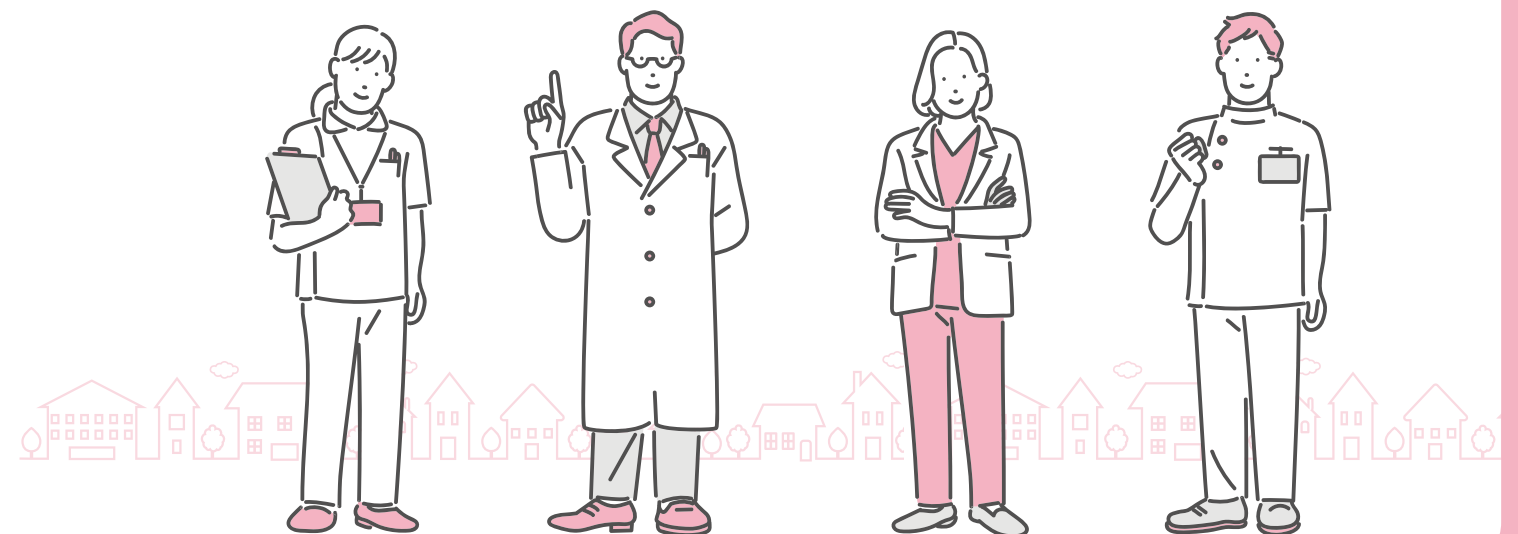
図1) 高齢者リハビリテーションのイメージ 厚労省資料

みなさまこんにちは。今回の広報誌さくらの誌面にて『地域ケア会議』についてお話しさせて頂くことになりました。せっかくの機会ですので、リハビリテーション専門職としての視点で地域ケア会議についてお話し致します。

地域ケア会議とは『個別の事例について多職種でアセスメントを行い、介護予防のためにどのような支援をしていくかを考える会議』といえます。自立支援・重度化防止等の介護予防の推進には、運動・口腔・栄養等に関して幅広い知見が必要です。多職種からの専門的な助言を持ち寄り、関係者全体の相互理解を深め、対象者の生活を支えるための連携体制の強化を目指します。

いちき串木野市の地域ケア会議では、助言者として療法士以外にも管理栄養士、歯科衛生士、最近では薬剤師も参加するようになっていきます。会議前に助言者同士で打ち合わせや確認を行い、事例ごとの課題に優先順位を決めて助言するような形をとっています。

地域のリハビリテーション専門職が地域ケア会議に臨むにあたっては、市の社会資源や総合事業、住民主体で自助や互助を中心に進める介護予防のコンセプトについても理解し、多職種と共有しておく必要があります。そんなに色々理解できないと思うかもしれませんが、地域に出ていくことで、地域の多職種と関わることで、自然と身についていくものと思います。私的な経験談ですが、コロナ禍前は地域の多職種との懇親会など基本は欠かさず参加し、地域のことを知り、互いを知り合って理解を深めていったように思います。酒席の繋がりの延長が地域づくりに役立っていると思うと、お酒好きの私にとっては◎です。



回復期リハビリテーション病棟の紹介

回復期リハビリテーション病棟とは

医師



患者さんも、スタッフも安心してリハビリテーションと生活の再建に取り組めるように、医療的な下支えを行います。病気だけでなく障害の特性、患者さんが生活で大切にしていることなどを把握し、目標を定めてチームでアプローチすることを大切にしています。より効率的、効果的の回復に繋げるために装具療法や神経ブロック、物理療法を併用した促通反復療法の導入、嚥下造影検査にも力を入れています。

看護師

患者様・ご家族が住み慣れた場所（適切な場所）で過ごせるよう日々支援しています。早期より面談を行い意思決定の確認、コロナ禍で会えず心配されているご家族へのケア、安心して住み慣れた場所で過ごせるよう感染対策に配慮しながらの家族指導、退院支援を行っています。職種間の垣根を越えた連携を密に行うことを大切に患者様・ご家族が入院から退院まで安心して過ごせるように努めています。



リハビリテーション

ご本人やご家族の価値観を大事にし、まずは「やりたいこと、やる必要がある課題（目標）」を設定し、その目標を達成するために根拠のある治療、利用できる資源を最大限に利用した24時間・365日での介入を意識しています。患者様ファーストの精神でチーム一丸となり目標達成を目指します。



介護士

病気を患い、今後どうなるのだろうか？と不安な思いを抱きながら日々リハビリに取り組んでいる患者様の身近にいる私たち。落ち込んでいる時も嬉しい時も、様々な場所で気持ちに寄り添い、出来る事が増えてきたときには共感しています。また長い入院生活の回復期病棟。日々居心地良く過ごして頂けるよう環境作りやリハビリスタッフと連携をとり趣味を活かせるような活動を行っています。



栄養科（管理栄養士）

患者様お一人おひとりの栄養リスクをいち早く発見し、多職種で連携を図り、栄養状態の改善そして、リハビリテーションが効果的に行えるように努めています。これからも、毎日安全に美味しく楽しんで食べて頂ける食事の提供に心がけていきます。



連携室（ソーシャルワーカー）

病院の相談窓口となる職種です。入院中の不安や悩みだけでなく抱えている問題の相談業務に加え、退院後の生活を見据え、社会福祉制度や各サービスの紹介、手続きのサポートなどを行います。また、在宅や社会復帰に向けて関係機関との調整や連携などを行い自立した生活を促します。

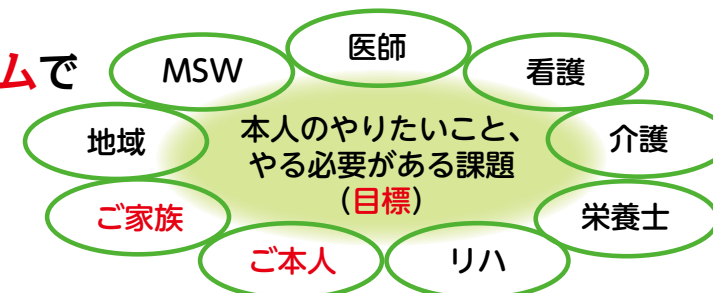


脳血管疾患または大腿骨頸部骨折などの病気で急性期を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者さんに対して、チームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻って頂くことを目的とした病棟です。

これらの患者様に対し、チームの各担当スタッフが入院直後より、寝たきりにならないよう、起きる、食べる、歩く、トイレへ行く、お風呂に入るなど（これらを「日常生活動作」(ADL)といいます）への積極的な働きかけで改善を図り、社会・家庭復帰を支援していきます。

R4 年度 回復期フロア目標

「患者・家族を含めたチームで
チャレンジに
目標達成を目指す」



アクションプランの柱

- ① 「退院支援」
→パスシートの運用、している ADL の把握と促進
- ② 「イベントや日中の活動量増加に向けた取り組み」
→ベランダの緑化、ころばん体操、イベントの開催、自主練習・生活行為チェックリストの運用、いいねシートのプレゼント

今年度はこの2つを柱にアクションを起こしていきます。
それぞれにフロア混合でチームを発足し活動中です。

次回は実際に取り組んだ内容をご紹介します。

医療法人静和会

みなと病院



◆ 精神科・神経科・心療内科

院長名 / 福崎 秀一

住 所 / いちき串木野市湊町 1 丁目 208 番地

電 話 / 0996-36-2126

診療時間 / 【月・火・水・木・金】

午前 9:00 ~ 12:00

午後 13:00 ~ 17:00

【土】

午前 9:00 ~ 12:00

休 診 日 / 日曜・祝日・盆・年末年始・病院行事の特別日

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	○	○	○	○	×
午 後	○	○	○	○	○	×	×

当院は、昭和 35 年に「市来保養院」と称し開業、平成 19 年 12 月に病院の全面改装を果たし、病院名も「みなと病院」へ改称しました。「みなと病院は、患者様の心を癒やし、社会復帰をしていく“みなと”でありたい。」という思いからつけた名称です。

理念「Life&Professional」を掲げていますが、ここでいう“Life”は、「患者様の生命・生活・人生」「Professional」は、「専門職集団としてチームワーク・知識を高め“Life”をよりよいものにする努力を続ける。」といった意味です。大きな理念ですが、「小さなことからコツコツと」積み重ね地域の精神科医療に貢献できるよう努力してまいります。

入院診療：精神科一般病棟 50 床・精神科療養病棟 60 床・認知症治療病棟 40 床。一般的な精神科治療に加え、精神科作業療法など非薬物療法も多く取り入れています。

外来診療：精神科医師の診療、心療内科医師による専門外来。精神科デイケア・精神科訪問看護・医療福祉相談による患者様の地域生活支援体制も整えています。

お気軽にお問い合わせ、ご相談ください。

医療法人實信会

まきのせ泌尿器科



◆ 泌尿器科・腎臓内科

理事長名 / 牧之瀬 信一

住 所 / いちき串木野市照島 6050

電 話 / 0996-33-0122

診療時間 / 〈泌尿器科〉

【月・火・水・金】

午前 9:00 ~ 12:30

午後 14:00 ~ 18:00

【木・土】

午前 9:00 ~ 12:30

午後休診

〈腎臓内科〉

【水】

午前 9:00 ~ 12:30

休 診 日 / 木・土曜午後、日曜、祝日

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	○	○	○	○	×
午 後	○	○	○	×	○	×	×

※腎臓内科の診療は水曜、午前のみです。

私ども医療法人實信会は、いちき串木野市の「まきのせ泌尿器科」と薩摩川内市の「川内まきのせ泌尿器科」にて泌尿器科・人工透析クリニックとして、さらに令和 3 年 4 月からは腎臓内科医を 1 名迎えて、「腎臓内科」の診療を行っています。これまでの診療に加え慢性腎臓病発症予防や重症化予防へも貢献していきたいと考えています。

「まきのせ泌尿器科」は現在常勤医 3 名と非常勤医 3 名体制で、泌尿器疾患全般および腎臓内科、血液透析の診療を主に行っています。入院ベッド数は 19 床で、前立腺肥大症や膀胱がんの内視鏡手術・前立腺がんを診断する為の前立腺針生検を行っています。また、透析医療に必要な血液内シャント作成術や内シャント不全に対するカテーテル治療（経皮的血管拡張術）にも積極的に取り組んでいます。

現在、53 床の透析ベッドで、約 120 名弱の患者様の透析治療を行っています。週 3 回の透析の際には無料送迎も行っています。透析に伴う合併症の予防や早期発見に努め、必要時には市内外の専門医療機関の連携体制を備えています。

「川内まきのせ泌尿器科」は来年 5 月には増築工事が完了する予定です。これからも「優しい、わかりやすい医療」を基本理念に、地域の皆様に信頼して頂ける医療を提供できるよう、スタッフ一同努めて参ります。

地域医療機関との相互連携を一層密に、医療を必要とする患者さんのニーズに応え、適切で切れ目のない医療提供の実現を目指しています。

医療法人杏林会

丸田病院



◆ 内科・血液内科・消化器内科・循環器内科・リハビリテーション科

院長名 / 下高原 茂巳

住 所 / いちき串木野市旭町 83

電 話 / 0996-32-2263

診療時間 / 【月・火・水・木・金】

午前 9:00 ~ 13:00

午後 14:00 ~ 18:00

【土】

午前 9:00 ~ 13:00

休 診 日 / 日曜・祝日・土曜午後

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	○	○	○	○	×
午 後	○	○	○	○	○	×	×

当院は、市街地の静かな場所に位置し、内科・血液内科・消化器内科・循環器内科・リハビリテーション科を中心に、生活習慣病に関する人間ドックも行っています。鹿児島大学病院からは、定期的に肝臓内科・消化器内科医が勤務しております。

医療に加え、介護も理学療法士・作業療法士による維持期リハビリに努め、さらにリハビリが必要な患者様は、老人保健施設（ライフハーバーいちき）に入所して在宅復帰を目指していただいています。介護で一時的にお困りの際は、短期入所のご利用も可能です。

グループホーム（あんずの家）は、一般の生活を楽しみながら、介護度が高くなった時は、病院または老健施設をご利用いただいています。

連携に関しては、脳血管障害が疑われた時には脳神経外科センターに、他の病気の時は高度で適切な治療のできる医療機関への紹介を行っています。

また、地域における病院の役割を果たし、利用者様中心の医療・保健・福祉を実現するために、同じグループの社会福祉法人慈恵会と共に質の高いサービスの提供を目指しています。

医療から介護まで、どうぞお気軽にご相談ください。

医療法人慈正会

宮之原循環器内科



◆ 内科・循環器内科

院長名 / 宮之原 浩

住 所 / いちき串木野市春日町 60 番地

電 話 / 0996-32-3241

診療時間 / 【月・火・水・木・金】

午前 9:00 ~ 12:30 (受付 12:00 まで)

午後 14:00 ~ 17:30 (受付 17:00 まで)

【土】

午前 9:00 ~ 12:30 (受付 12:00 まで)

※予約優先となりますので、お電話でご相談下さい。

休 診 日 / 日曜・祝日、第3木曜・第4土曜・土曜午後

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	○	○	○	○	×
午 後	○	○	○	○	○	×	×

※木曜午後、休診の日もあります。

当院は、19 床の有床診療所です。かかりつけ医としての一般の内科診療に加え、様々な心疾患、およびその原因となる生活習慣病（高血圧症・糖尿病・高脂血症・動脈硬化症など）の診療を行っています。

今後、心不全患者は増加する傾向にあり、その予防ならびに治療の一つとして心大血管疾患リハビリテーションが有用と言われており、当院でも取り組んでいる所です。心大血管疾患リハビリは、脳血管疾患や整形外科疾患で行われる個別的なリハビリとは少し異なり、集団で行う運動療法に加えて、栄養指導や病気に関する教育も含まれており、医師・看護師・理学療法士・栄養士・薬剤師・ソーシャルワーカー等がチームとなって患者様・ご家族様を支援する、包括的リハビリテーションです。当院では、通常の血液・尿検査や心エコー検査に加えて、CPX（呼吸ガス分析）で患者様にあった運動レベルを測定し、また INBODY（高精度体成分分析）で体水分量・筋肉量・脂肪量を測定することで、患者様に合った運動療法・食事療法の提案や、薬剤の調整等も行っています。

心臓病や生活習慣病で、お薬や運動・食事に不安をお持ちの方は、当院スタッフにお気軽にご相談下さい。

みんなの掲示板

一期一会

藤崎 悦郎様

2年前に脳梗塞で入院。

呂律が回らず、食事も摂れない。左手が思うように動かず、歩く事もままならない。自分が良くなるのか、元の生活に戻れるのか、不安を抱えた入院生活。

そんな藤崎さんを奮い立たせたものは、一つの目標。

『自分の作った弁当で、人を健康にしたい』

元々、“食で人々のカラダと心を健康にしたい”という思いで食堂を営んでいました。その目標が藤崎さんを奮起させ、退院後のリハビリ生活も卒業されました。

現在は、毎日地域の方々へ弁当を作り、配達をされています。

『食で明日のカラダが作られる。そのカラダで地域の未来が創られる。』

病気でハンディキャップを抱えたとしても、それを乗り越え、地域への社会貢献が出来る。

藤崎さんの一生懸命リハビリをしている姿が、私たちにそう教えているようでした。今後も藤崎さんのご活躍を応援しています。

通所リハビリテーション 言語聴覚士 春山 聡子



ホームページリンク先

公益社団法人
いちき串木野市医師会



いちき串木野市医師会立
脳神経外科センター

